

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Next Step 基山			
○保護者評価実施期間	平成38年8月10日		～	平成38年8月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	28人	(回答者数)	24人
○従業者評価実施期間	令和8年8月10日		～	令和年8月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数)	5名
○事業者向け自己評価表作成日	平成38年9月14日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運動療育では、身体機能向上だけでなく、相手の気持ちを理解する、力の加減をする、チームワークの大切さを学ぶことなどを意識して取り組むことに力を入れている。	理学療法士や作業療法士などの専門的な評価や見解も入れながらも、児童が楽しく体を動かすことができることを活動毎に意識して計画している	何の目的に実施するのかを、各スタッフが常に意識し、専門職と連携して計画、実施することを強化する。その活動の中で個々の児童のアセスメントを行い、目標を設定し、それぞれの課題にあった支援内容につなげることができるように取り組んでいく
2	療育全般を通して、通所する児童が楽しいと思ってもらえることを、常に考えて企画し、支援に生かしている	5領域に沿って、各児童が「楽しい」を感じるような支援内容を、スタッフ間で検討しながら取り組んでいます。	支援内容によっては「楽しくない」と感じる児童も存在するため、各児童の興味や関心を広く理解しながら、支援内容を決定する。外出行事についても、多いと感じるご家庭もあるため、利用時間や(暑さや活動内容によつての施設の広さ)環境にも配慮しながら今後も計画を立てる
3	将来につながる療育を目指して、時間を守る、片付ける、時間を守るなどの基本的なことに対して重点を置き、日常の様子も大事にしながら支援を継続する	療育の中で色々な場面での気づきに対してその場で伝えることを大切に、直ぐに出来なくとも繰り返し伝えることで、少しずつでも意識ができるように各スタッフが積極的に声掛けしている	児童の学年、特性、理解面、その日の気持ちの面で上手く伝わらないこともあるため、ご家族にご理解いただけるような丁寧な説明を継続して行い、職員とご家族がご自宅でもしっかりと取り組むことができるような体制を強化します。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所のスペースが利用児童数によってスペースに限りがある	当初、想定した療育スペースなどに対して、利用児童数の増加により、十分な広さを感じない日もあるため	今後、事業所の移転なども含めて検討する。また、活動や療育内容によっては、公園や体育館などの公共施設を利用して児童がのびのびと療育を受ける環境を作る工夫をしている。
2	個別支援計画に沿って、個々の課題に応じた声掛け、関わりを含めた支援を行っているが、現状の様子に合わせた支援を提供できるように、必要に応じて個別支援計画の内容を見直ししていく。	児童の様子や成長度に応じて課題が変化し、目標設定や支援内容が変化するため。	個々の利用児童の様子に合わせて、定期的な支援内容の方法の見直しなどを行う
3	保護者対しての情報共有は事業所の面談以外では、電話、個別のLINE、送迎時など様々な形で行なっているが、今後は更に支援内容や現状の様子をより詳細にお伝えし、共有する方法を工夫する必要がある。	限られた時間では十分に伝わらないこともあるため	専門的な表現でなくわかり易い表現で伝える。また、保護者が日頃の様子を確認でき、情報を共有出来るように支援システムの導入を進めています。